

# 博覧会上映後のマルチ映像作品の二次利用

チャールズ・イームズの『Think (1964)』と『View from the People Wall (1966)』の意義

Secondary Use of Multiple-Image Works in Post-Exposition

- Meaning of C & R. Eames's Works *Think* and *View from the People Wall* -

脇山真治 / 九州大学 大学院芸術工学研究院

WAKIYAMA Shinji

Keywords : Multiple-Image, C & R. Eames, Preservation of Image Display Works

## 1. はじめに

博覧会の展示に使われる映像は、基本的にはその開催期間限定で制作・上映される。終了後の再演は計画されていないので、一部の原版（フィルムやデータ）は保存されるが、上映システム自体は撤去されるためにオリジナルの形式で再現されることはほとんどない。ことにマルチ映像ではその傾向が顕著である。

博覧会で映像が主役となったのは 20 世紀になってからである。1964-65 New York World's Fair と Montreal EXPO '67 はその後に続く映像博覧会の原型となったことは周知の事実である。実験的な映像展示も多く歴史的な「名作」といわれる展示もあるが、それらは会期後に何らかの形で上映されることはなく、貴重な映像資産の継続的な情報公開の道は閉ざされたままである。本研究は博覧会における映像展示に先駆的な役割を果たした Charles Eames の試みを検証しながら、博覧会映像の二次的な利用の可能性と意義について問題提起することを目的とする。

## 2. 博覧会映像展示の現状と問題点

1970 年の日本万国博覧会は映像博覧会の典型として、多くの出展館が映像の導入を試みた。1967 年モントリオール博覧会の影響が指摘されるが、前回のしるぐ規模の映像展示をおこなった。しかし博覧会の宿命としてパビリオンが撤去されると同様に、映像展示もまた会期終了と同時に解体されるため、同じ条件で、あるいは同じコンセプトで上映されることはなかった。さらにオリジナルソフトは、ひとたび制作会社の倉庫に保管されると、上映空間や予算、スタッフ等の相応の環境が整備されないかぎりほぼ永久にお蔵入りである。

例えば日本万国博覧会の日本館第 5 ゾーンの 8 面マルチ映像『日本と日本人』は市川崑監督作品だが（図 1）、非劇場映

画のため、原版に関してはは製作会社である東宝にも保管規定はない。この作品は今日までオリジナル形式はもちろんのこと合成処理を行って単面上映されたこともない。また同じく電気事業連合会・電力館の『太陽の狩人』は 5 面マルチ映像だが（図 2）、製作を東宝と岩波が担当した後、オリジナルの所在は明らかでない。また上映システムの一部は会期後に旧関電学園の敷地で展示されていたがその後撤去された。

博覧会映像は会期終了後まったく再演されないわけではない。たとえば 1985 年の国際科学技術博覧会の富士通館『ユニバース』はその後常設上映となり、2005 年開催の愛知万博の全天球映像「グローバルビジョン」は国立科学博物館で、三菱未来館「IF Xシアター」はハウステンボスにおいてそれぞれ再建され現在も上映されている。いくつかの例外はあるものの、基本的には博覧会映像が再上映されたり、再構成されて公開されることは予算措置、運営管理の問題から非常にまれである。

博覧会映像は先端的かつ、前衛的な要素が盛られたその時代のすぐれた映像作品のひとつである。しかしイベントの一回性という希少性を旨とする側面からは、「再演しないことの意義」に異を唱えることはなかったといつてよい。技術と表現とが一体となって開発される特殊映像ゆえにこれを残すことは前提になっていないのである。しかしながら、一方では優れた作品ゆえに博覧会の期間を超えて公開できれば、博覧会に参加できない多くの人々に、作品のコンセプトやメッセージを継続的に配信することができ、加えて博覧会映像の研究者、制作者にとって有益な資料となると思われる。

## 3. C. イームズの博覧会映像『Think』

1964-65 年、ニューヨークにおいて国際博覧会が開催された。IBM は展示担当としてチャールズ・イームズ（図 3）を指名した。展示コンセプトは「Think: 考える」で、彼はこれを具現化するために変形の 22 面マルチスクリーン（図 5）をデザインした。

IBM 館は 500 人の観客（人の壁になぞらえて People Wall とよばれる）をもつ劇場で（図 4, 図 6）、膨大な映像素材をとおして、私たちにとって「考える」とは何かを問うた。「考える」は抽象的な概念であるために、具体的な事例を多く組み込んだ。都市計画、列車のダイヤ、飛行機的设计といった産業の

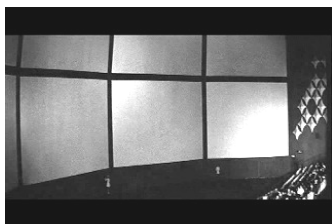


図 1. '70 日本万国博覧会の日本館の 8 面マルチ映像



図 2. 日本万国博覧会の電力館 5 面マルチ映像

側面から、パーティーの計画や朝食の準備にいたるまでさまざまな事例が挿入され、その実態をとおして計画を実行するために「考える」ことの普遍性を構築するという構成になっている。これは企業メッセージにとっても最適なテーマであり同時にイームズの演出の秀逸さもあって、人気のパピリオンとなった。

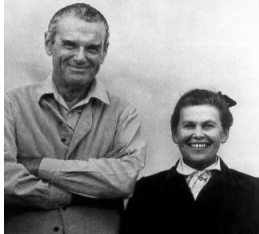


図 3. イームズ夫妻



図 4. '64 '65 NY World's Fair における IBM館の外観

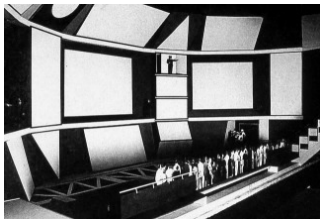


図 5. 『Think』のスクリーン構成



図 6. People とよばれる客席

#### 4. 『Think』から『View from the People Wall』へ

『Think』が投げかけた人間の本質的な「考える」ことの普遍性は、同時にIBMの普遍的な企業理念に通底するものではなかったか。当時アメリカではすでに100年を超える万博の歴史があり、仮設性や技術的挑戦、あるいは実験的な試みといった博覧会の根幹についての認識は十分に育っていたと思われる。しかしながら会期終了後にIBMは、上映システムの複雑な『Think』を簡便にしかもそのメッセージ性を損なうことなく、広く公開できるというイームズの提案に再びスポンサーとなった。

イームズが選択した方法は「マルチスクリーンのスプリットスクリーン方式による再現」である。すなわち22面のス



図 7. 『Think』のパーティーシーン



図 8. 『View from the People Wall』よりパーティーシーン



図 9. 図 10. 『View from the People Wall』より抜粋

クリーンの映像を再構成して、1本のフィルムに分割画面として焼き付ける手法をとった(図7, 図8)。分割数は最大で9面だがそれでもオリジナルのメッセージを類推する上でなら不都合のない構成である。このフィルムのタイトルは『View from the People wall』である。劇場内の観客から見えたマルチスクリーン映像を「擬似的に再現」したフィルムであることを意味している。分割数が減らされたのは22面の焼き込みでは、あまりにも細分化され、個々の映像の精度が保証されないと判断したからではないかと考える(図9, 図10)。

この「映画」は当時学校教育あるいは企業のプレゼンテーションルーム等に普及していた映写機で上映できるように16mmフィルムで仕上げられた。

#### 5. イームズの試みが示唆するもの

博覧会映像が仮設性の強いものであることは、同時にコンテンツの記録、関係者間の情報共有、クリエイター育成、映像資産の保存等の障壁ともなっている。3D映像や大型映像などはオリジナルに近い形で再現は可能だが、マルチ映像はシステムの複雑さゆえに多くの困難が伴う。イームズの試みの意義はつぎのように考えられる。

- (1) 博覧会での映像作品のコンセプトならびに出展者メッセージを、会期終了後も継続的に発信できる。
- (2) 16mmフィルムで仕上げたことによって全世界の学校等の教育機関や文化施設で上映できる。
- (3) 会期終了後もIBMの広報活動の一端を担っている。
- (4) 特殊仕様の映像のフォーマットを単純化したもののコンテンツを保存することへの問題提起をした。
- (5) 博覧会映像の希少性を残しつつ、公開の一回性に対して、事後に引き継がれる可能性を示唆した。

#### 6. まとめ～博覧会映像の二次利用の今後の課題

博覧会におけるマルチ映像は空間演出や特殊効果との組み合わせによる複合的な作品として上映されることがあるために忠実な再現は困難である。「一回性の価値」ゆえにそれが再び上映されることはなかった。イームズの試みは博覧会のマルチ映像を、擬似的・簡易的に再現することだったが、今日ではオリジナルに近い形で再現の可能性もでてきた。たとえばIMAX等の大型映像にマルチ映像を焼き付けることによって、ある程度現実のスケール感を保ちながら上映することもその一つである。

しかしながら博覧会映像はそもそも環境演出を含めて制作されているため、二次利用は技術課題の解決のみならず、上映形式を変更することに対する著作物としての利害関係者間の調整と合意という問題もクリアしなくてはならない。

#### 参考文献・資料

- ・ John Neuhart, *Eames Design*, Harry N. Abrams, Inc, 1989
- ・ Donald Albrecht, *The Work of Chares and Ray Eames*, Harry N. Abrams, Inc, 1997
- ・ 『View from the People Wall』 special edition, Eames office, 2001
- ・ 『The 1964 World's Fair』 Janson Associates, Inc, 1996